

2017年7月21日

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内 勇夫殿

一般社団法人 日本私立獣医科大学協会
会長 谷山 弘行

あらたな学生会員（Student doctor）区分創設の提案

貴職益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。日頃から私ども日本私立獣医科大学協会の活動にご理解いただき、心より感謝申し上げます。

さて、本協会の先の理事会において下記の提案がなされ、貴会にご理解とご検討をいただきたく申し入れをさせていただきます。この提案は今後の日本獣医師会の会員確保の為にも資するものと思われまますので、ご検討いただきますようお願い申し上げます。

提案理由：現在、我が国の獣医学教育界では、教育の国際水準化を目標に、全国の獣医学生の質保証の為、獣医学共用試験の導入と、その合格者に参加型の臨床実習を義務付けています。実際、昨年度から、全国の各大学の獣医学科在籍の4、5年生の、参加型臨床実習に臨む前の学生に対して、実習を受けるにあたって必要な最小限の知識・技能・態度の各項目での習熟度を評価するため獣医学共用試験が実施されております。そして獣医学共用試験の合格者には NPO 法人獣医系大学間獣医学支援機構発行の合格証が付与され、その資格で参加型臨床実習に臨んでおります。

そこで日本私立獣医科大学協会では、日本獣医師会が全国16大学の獣医学共用試験に合格した学生をいわゆる（仮称）Student Doctor として認定し、日本獣医師会の正会員、賛助会員（学生会員を含む）と分けている既存の会員区分の中に新たに（仮称）Student doctor という区分を創設できないかと、ご提案するものです。

これにより彼らは自らの置かれた責任ある立場を意識し、未来を繋ぐ GlobalHealth 向上のための人材として、日頃から日本獣医師会活動との連携をより一層深めることになると思われます。また、彼らが日本獣医師会の会員となることで自分自身に近い将来やってくる獣医学教育の出口の向こうに、特に、国

際的には公共獣医事 (Veterinary Service) を担う人材、国内的には食の安全確保、人獣共通感染症への対策、小動物を主体とする獣医療サービスの多様化をそれぞれ担う人材や、公務員として行政に従事する人材ならびに産業動物 (大動物) の健康管理を担う人材など、様々な社会的ニーズが存在していることを具体的に理解し、ますます日本獣医師会の活動が重要であることを認識をします。

今回の提案は共用試験合格後の学生で今までの学生会員の範疇とは異なり、獣医師により近い位置づけを目的とします。今後、貴会への帰属意識を高める上でも新たに (仮称) Student doctor の区分を創設する事は貴会のためにもなる大変重要なことと思われまますのでぜひ導入に向けて、ご検討願いたいと存じます。